

海洋生産科学特別コース

コースの教育理念と教育目的 コースのディプロマ・ポリシー コースのアドミッション・ポリシー
コースのカリキュラム・ポリシー

コースの教育理念と教育目的

世界的な人口急増のなかで、動物性タンパク質を水産物へ依存する傾向が強くなっており、食料生産のなかで水産業の果たす役割と意義は今後、益々大きくなります。そこで、本コースでは、「生命科学」「環境科学」「社会科学」の3つの学問領域を有機的に連携させ、文理融合型の体系的な「新しい水産学」の教育・研究を通して、地域水産業へ積極的に貢献できる人材を育成します。

卒業後の進路

卒業生の就職先は、大学院への進学、水産関連の企業や団体職員、公務員など多岐にわたります。

取得可能な学位

学士(農学)

[ページの先頭へ戻る](#)

コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針, 卒業時に必ず身につける能力)

1. 南予水産研究センターを有効活用することで、学際的で実践的な知見を有している。(知識・理解)
2. 水産科学の基礎理論を踏まえて、多様な実験・実習、フィールドワークを展開し、実学的な知見を習得している。(知識・理解)
3. 循環型社会構築の視点から、地域社会や国際社会における水産、資源、環境、海洋に関する諸問題の起こる背景や原因についてグローバルな視点と柔軟な発想で、論理的に説明でき、解決策を考えることができる。(思考・判断)
4. 上記の諸課題を解決するため、協調性と高い倫理性を持って、自律的・継続的に行動することができる。(関心・意欲・態度)
5. 自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。(技能・表現)

[ページの先頭へ戻る](#)

コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針, 入学時に問われる能力)

農学部は、地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関する様々な問題を解決し、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる人材を養成することを教育理念としています。この教育理念に基づき、また、農学が広範な総合科学であることを考え、食料・資源・環境に関する様々な問題の解決に熱意をもち、多様な能力・適性をもった学生を受け入れることを、アドミッション・ポリシーとしています。

(知識・理解)

1. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。
2. 次のいずれかに該当する。
 - A. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの課題を解くことができる
 - B. 農業・生物資源または工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有している。
 - C. 高等学校で選択履修した教科・科目について、実践的・体験的学習から得られた知識・知見・技術を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(関心・意欲, 態度)

地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関する様々な問題に関心を持ち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲を持っている。

(技能・表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

[ページの先頭へ戻る](#)

コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針, カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

本コースオリジナル科目(海洋生産科学 I ~V)を配し、本学科の生物環境保全学, 資源・環境政策学などの専門教育コースの授業科目(実験・実習を含む)を活用し、総合的に理解を深めます。

[前のページに戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)